

登山月報



八幡平から岩手山



2017年新春懇談会	2
第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会報告	3
第6回日本山岳グランプリ	4
パラクライミング日本選手権大会2017を終えて	5
第99回 Mountain World	7
「山の日」制定記念一ふるさとの山に登ろう	8
ルンポ・カンリ北壁初登攀報告	9
平成28年度後期海外登山奨励金選考結果	10
UIAA登山部会ヨルダン、ペトラ会議を終えて	11
JMA、寄贈図書、編集後記	12

2017年新春懇談会

恒例の新春懇談会が1月14日(土)にアルカディア市ヶ谷で開催された。当日は駐日ネパール大使代理クリシュナ・チャンドラ・アリナル氏をはじめ東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会・布村幸彦副事務総長、国立登山研修所・宮崎豊所長、加須市・大橋良一市長、日本勤労者山岳連盟・西本武志会長、浦添嘉徳理事長、日本山岳ガイド協会・磯野剛太理事長、日本ヒマラヤ協会・山森欣一会長、日本山岳文化学会・小疇尚会長、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト・田上和義理事長など大勢のご来賓、招待者を迎えて、160名の参会者となった。

はじめに高副会長が開会を宣言し、八木原会長が主催者を代表して挨拶を行った。「昨年は祝日「山の日」が施行され、第1回「山の日」制定記念全国大会が開催されるなど各地で記念行事が行われた。この「山の日」を好機と捉えて一人でも多くの皆さんが山や自然に親しむ仲間を増やし、登山の普及振興につなげたい。また、スポーツクライミングが東京2020オリンピックの正式競技種目となった。日山協は今年から法人名称を変更して、組織体制も改編し、東京五輪の成功に向けて万進していきたい。」と力強く挨拶された。

続いてご来賓を代表してアリナル大使代理、布村副事務総長、宮崎所長からご挨拶を頂戴した。

来賓祝辞の後、各種表彰が行われた。まず、第6回日本山岳グランプリは、日本のインド・ヒマラヤ研究の第一人者の沖允人氏に贈賞された。沖氏は、永年にわたってインド・ヒマラヤの研究と登山に取り組み、未知なる山域に足跡を印されてこられた。昨年J

AC創立110周年を記念してJAC東海支部が上梓した「インド・ヒマラヤ」の編集長を務めた。

続いて日山協や各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功労表彰が行われた。受賞者は、相澤岩男(宮城)、稲泉真彦(山形)、尾形一幸(福島)、小森栄治(茨城)、古屋寿隆(山梨)、長谷川清(福井)、山根幸雄(山口)、後藤利雄(大分)の各氏と「はんしん自立の家」甲山登山隊。

次にIFSCKライミング・ワールドカップ2016の優秀選手ではワールドランキング男子1位(ボルダリング)となった榑崎智亜選手と同2位の藤井快選手。同じく女子2位の野中生萌選手と同4位の野口啓代選手。世界選手権パラクライミングで優勝した小林幸一郎選手(B1)と会田祥選手(B2)が表彰された。

一連の各種表彰の後、乾杯を行い祝宴に入った。

乾杯は、坂口三郎、山本久子、城隆嗣、田中文男、本木總子、神崎忠男各顧問によって行われ、代表して坂口顧問のご発声で祝杯を上げた。

北は北海道から南は九州・大分まで世代を超えた方々が一堂に参集され、あちらこちらで懐かしい思い出話に花が咲いていた。

会場には、スポーツクライミング日本代表選手会々長の杉本怜選手はじめ榑崎智亜選手らの代表選手が出席され、歓談中に小日向徹選手強化委員長から各選手の紹介と今後の抱負を語って頂いた。

名残尽きない楽しいご歓談の後、亀山副会長が中締めを行い、最後に尾形副会長より閉会宣言があり、お開きとなった。(記 尾形好雄)



八木原会長挨拶



顧問の皆さんによる乾杯

第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会報告

2010年から開始されたこの大会も、今回で7回目を迎えることができました。当初は日本山岳協会が主催で実施していましたが、2回目より全国高等学校体育連盟も主催に加わった背景があります。

そして、2020年の東京オリンピックに於いてスポーツクライミングが競技種目に新たに加わったことは大いに喜ばしいことでした。これは、現在クライミングを行っている少年少女達にとっても大きな励みとなり、目標ができたことと思います。そして第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会（特別協賛：三井住友海上火災保険㈱、協賛：オリエンタルバイオ㈱・牛乳石鹼共進社㈱）が、12月24日（土）～25日（日）の2日間にわたり埼玉県加須市民体育館にて開催されました。

本大会の参加状況は、全国41都道府県から男子37県71校102名、女子34県59校82名、合計184名の選手が出場しました。昨年より選手数で7名減ってしまいましたが、団体参加校は男子29校、女子23校と増加をしました。

開会式では、日本山岳協会の八木原囃明会長より「東京オリンピック2020で開催競技となることに触れ、参加している選手達へオリンピックでメダルの獲得を目指して欲しい。」との力強い挨拶がありました。また、加須市長大橋良一様からは、「寒い季節の大会だが、高校生の熱い戦いを期待し、クライミング競技をこれからも益々応援していく。」との励ましのご挨拶をいただきました。

初日の予選はフラッシングで、男女それぞれ2つのルートに登り、その合計で競いあいました。予選のグレードは男子が13 a、女子が12 cと12 c / d。2ルートとも完登した選手は男子5名、女子1名で昨年より難しくなった感がありました。男子27名、女子26



競技会場

名が翌日の準決勝に進みました。

大会2日目午前の準決勝からオンサイト方式となり、グレードは男子が13 b / c、女子は12 dに設定されました。完登したのは男子1名と女子では0名と難易度が高かったようでした。男女それぞれ8名が決勝に進出しました。

午後からは女子、男子の順で決勝が行われ、前半の女子決勝は準決勝と同じグレード12 dの壁に挑みましたが、完登者はいませんでした。7番目に登った高田こころ選手（鳥取中央育英・鳥取）が僅差を制して昨年に続き優勝しました。2位は、清水夏子選手（千葉東・千葉）が入りました。

後半の男子決勝ではグレード13 cの壁に挑戦しました。いずれの選手も実力者揃いで、ギャラリーの熱い声援を受けながら手強い壁に挑みましたがこちらも完登者は出ませんでした。実力が伯仲している中、本間大晴選手（久喜工業・埼玉）が優勝しました。2位には今泉結太選手（翔洋学園・茨城）が入りました。

最後になりますが、例年この大会を準備段階からご尽力いただいている、地元加須市ならびに加須市山岳連盟・埼玉県山岳連盟の方々に深い感謝の意を表するとともに、加須市のクライミングウォールで自らの技を競いあった若き



オブザベーション



本間大晴選手



女子個人表彰



男子個人表彰

クライマー達が、今後のスポーツクライミングの発展に貢献してくれることを願っております。

(記 中瀬和徳)

第7回全国高等学校選抜クライミング大会成績

個人男子

- 1位 本間 大晴 (久喜工業・埼玉)
- 2位 今泉 結太 (翔洋学園・茨城)
- 3位 山内 響 (盛岡南・岩手)
- 4位 大高 伽弥 (東野・埼玉)
- 5位 河上 紘輝 (鳥取中央育英・鳥取)
- 6位 土肥 圭太 (平塚中等・神奈川)
- 7位 渡部 慎一 (東温・愛媛)
- 8位 井上 遼 (新田・愛媛)

個人女子

- 1位 高田こころ (鳥取中央育英・鳥取)
- 2位 清水 夏子 (千葉東・千葉)
- 3位 大河内芹香 (佐世保東翔・長崎)

- 4位 戸田 萌希 (山梨・山梨)
- 5位 清水陽華莉 (洛北・京都)
- 6位 古川日南子 (鳥取中央育英・鳥取)
- 7位 菊沢 絢 (幕張総合・千葉)
- 8位 森脇ほの佳 (昇陽・大阪)

団体男子

- 1位 盛岡南 (岩手) 山内響／中島大智
- 2位 鳥取中央育英 (鳥取) 河上紘輝／中田大地
- 3位 東北 (宮城) 長澤青空／阿部光平
- 4位 夢野台 (兵庫) 白坂翠／二重龍斗
- 5位 新南陽 (山口) 久野純／村田蚩介
- 6位 富士宮西 (静岡) 望月衛／古郡雷漸

団体女子

- 1位 鳥取中央育英 (鳥取) 高田こころ／古川日南子
- 2位 佐世保東翔 (長崎) 大河内芹香／木下茜
- 3位 幕張総合 (千葉) 菊沢絢／西田朱李
- 4位 浜松日体 (静岡) 中村祐香梨／鈴木彩有希
- 5位 東北 (宮城) 佐藤涼香／千葉若菜
- 6位 多久 (佐賀) 岸川弓子／渡島奈緒

第6回日本山岳グランプリ

第6回日本山岳グランプリの受賞は、日本のインド・ヒマラヤの第一人者、沖允人(おき まさと)氏に決定した。

沖氏は足利工業大学名誉教授(81歳)広島市出身。足利工業大学理工学部電気工学科を卒業後、京都大学大学院で建築を学び、工学博士号を取得。1990年から足利工業大学建築科教授となる。1974年から1年半、インド北部の研究学園都市、ルールキーの中央建築研究所で客員研究員を務める。

登山は、名古屋在住時に中京山岳会で活躍。中央アルプス、御嶽山などの地域研究を行う。1965年には、愛知県岳連隊でダウラギリⅡ峰に遠征。栃木県足利市に移られてからは、栃木周辺の山に登られ「とちぎの山」を著す。以後、近年まで毎年のように海外登山を実践。特にインドのカシミール、ラダック、ザンスカールに足繁く通われ、1985年には日印合同隊を率いてサセル・カンリⅡ峰に初登頂。昨年、日本山岳会創立110周年を記念してJAC東海が上梓した「インド・ヒマラヤ」の編集長を務めた。インド登山界の人脈も太い。



パラクライミング日本選手権大会2017を終えて

単独開催の大会としては2回目をむかえたパラクライミング大会。昨年に引き続いて明治大学和泉キャンパス総合体育館をお借りして2017年1月22日に開催した。

今回はブラインドクライマー以外に車いすのクライマー（カテゴリーでは神経障害部門R P 2）が初参加した。そして視覚障害カテゴリー男子B 1、B 2、B 3、女子B 2、B 3、5部門に計16名。R P 2男子3名。合計19名の選手が北は札幌、南は高知から集まった。受付後、開会式を他の日山協主催の大会と同様な流れで行う。

予選はR P 2が1ルート、ブラインドが2ルートとする。R Pは選手の障害により、かぶりのある壁でなければ難しいので今回は1ルートとさせてもらう。出場した3名中2名は想定していた登りより遥かに高いレベルで2名が完登という素晴らしパフォーマンスであった。会場からも大きな拍手と驚きの声が上がっていた。

ブラインドクラスは5.10の前半クラスの課題を設定。

2本同時に登る。今回のルールは、ブラインドクラスは大会役員が下からホールドの位置等を指示するというIFSCのルールに近いもので行う。2ルート同時に指示をすると混乱するため左ルートの選手には無線を使って耳元で指示が聞こえるようにした。ブラインドクラスは昨年の大会に参加している選手が多かった。2ルートとも完登する選手が16人中10名もいた。選手の力が明らかに上達していると感じられた。

各カテゴリー参加選手3名以上で大会成立とし、予選の上位3名が決勝進出とした。そのためB 3女子2名は2ルートとも完登したのだが、参加者が2名ということで大会不成立。残念ながら決勝には進めること

ができなかった。

決勝は、R P 2男子、B 1、B 2、B 3男子、B 2女子の5部門の15名で争うこととなった。

最初にR P 2の決勝。予選と同じ壁に決勝用のホールドを付けたルートに挑む。予選3位の選手は、右手に麻痺がありそれをかばって左手で上のホールドを取りに行くという動きでホールドを一つずつ掴み登っていった。2番手の選手はゴール一つ手前で終了。最後の選手は最終ホールドを何度かつかみにいくがここで終了。優勝は兵庫から参加の大内選手がつかみ取った。

ブラインドの決勝は、B 3からスタート。ブラインドクラスはアイソレーションエリアでコースのホールド位置を録音したものを何度も聞いてホールドを覚えることが大切。

B 3は一人完登の蓑和田選手が優勝。B 2女子は江尻選手が同高度の付記+で優勝。B 2男子は世界チャンピオンである会田選手が余裕の完登で優勝。B 1は同じく世界チャンピオンの小林選手が完登で優勝。

今年は審判長を羽鎌田直人氏が務め、昨年とは違いスムーズな大会運営となった。また専属のMCの方もお願いし、大会の雰囲気も温かく和やかなものにしていただいた。

出場選手は昨年より3名の増加（エントリーは21名で棄権2名）。参加地域も広がり応援者も増え、大会の盛り上がりを見せた。大会協賛会社も昨年のラフマミレー社1社からアディダスジャパン社も加わっていた。ご協力に感謝申し上げます。

問題点もいくつか浮き彫りになってきた。昨年と同様にカテゴリーの成立を3人以上とした。決勝進出を上位3名としたため、エントリー3名のところは全員決勝に進めるということでカウントバックがあるといえども少し緊張が欠いていたこともあった。また、予選



2本とも完登したのに決勝に進めなかったB3女子2名は大会ルールとはいえ残念であった。

予選はIFSCルール通りフラッシュとしたが見えない見えづらいブラインド選手にとってはフラッシュというのが曖昧であった。やはりホールド位置の音声を録音したものを聞いてもらうという従来の方法の方が選手にとっては良かったのではと思われる。

ブラインドクラスは世界選手権ではコーチがつき、コースのナビゲーションを下から指示をすることができる。アイソレーションエリアでもコーチとコース攻略法を考えることができる。日本選手権でも選手にそれぞれのパーソナルコーチがつくことが望ましいが、現実には難しいであろう。今回実施した大会役員が下からナビゲーションを行うのがベターであったかと思う。

どちらにしても、パラクライミング大会は回数を重ねていき、より良い大会へとしていくことが大切と考える。回を重ねることでパラクライミングの広がり期待出来る。2024以降のパラリンピックでのクライミング開催に向け日本はいつでも対応できるように大会組織運営、選手発掘、選手強化等を日山協が取り組んでいかなければならないと考える。

(競技部競技運営委員 佐藤 建)



RP2クラス 1位大内秀之 2位猪飼嘉司 3位鶴園誠



B3男子クラス 1位蓑和田一洋 2位江尻元洋 3位星野隼人



B2女子クラス 1位江尻弓 2位青木宏美 3位椎橋瑠里子



B2男子クラス 1位会田祥 2位山崎康興 3位中越祐太



B1男子クラス 小林幸一郎 2位前岡正人 3位伊藤勝則

南米アンデスを代表する華麗な氷峰群をめぐる充実したトレッキング

**アンデス・ブランカ山群
トレッキング 11日間**

発着地 東京 旅行代金 ¥528,000~¥536,000

出発日 5/16(火)・5/30(火)・6/13(火)・6/27(火)

※燃油サーチャージ(2017年1月20日現在)は不要となっておりますが、今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

トゥインズ東峰北壁の初登攀

池田常道

トゥインズ(7350m)は、カンチェンジュンガ主峰とノース・コルを隔てて対峙するピークで、東西二つの頂を持つことから双子峰と名付けられた。フレッシュフィールド(英)一行が1899年にカンチェンジュンガ山群を一周した折に命名したのである。1930年にカンチ北壁を試みたディーレンフルトの国際隊がカンチェンジュンガ氷河から接近したが、北壁での事故後氷河上流に向かい、手は出さなかった。

1936年、パウル・パウアーのドイツ隊はシッキム側から東稜を試み、6400mで断念した。彼らはその代わりに、ネパール・ピーク中央峰とシニオルチューの初登頂を勝ち取った。その翌年には、スイスのエルンスト・グローブとルートヴィヒ・シュマーデラー、H・パイダールがパウアー隊と同じルートで敗退。この3人は2年後に改めて挑戦、テント・ピークに初登頂した後トゥインズを目ざしたが、悪天候に妨げられた。

第2次大戦前の登山はこれで終わり、戦後は鎖国を解いたネパール側へと舞台は移る。1963年、宮澤憲隊長の東京農大隊は北西稜を攻めたが、約7000mで断念した。その後、ネパール側では許可峰リストが整備され、定期的に改訂されていくがトゥインズの名はなく、長く未踏のまま残されることになった。

1993年、シッキム側の入域許可を得た明治学院大隊(伊丹紹泰隊長)はインドとの合同で東稜を攻め、東峰を越えて最終キャンプを建設、主峰に向かった。しかし、途中で先頭を交代しようとロープを外した佐藤正倫隊員がヒドンクレバスに転落・死亡、東峰の全員登頂で終わった。主峰に登られたのは翌年、大滝憲司郎隊長の日本シッキム隊による。同じ東稜から2隊員とシェルパ5人が頂上直下に到達したが、シェルパたちはシッキムのしきたりにしたがって「処女峰の頂上は踏まない」と初登頂を主張した。納得できない高嶋石盛と築井一徳の2人は翌日改めて頂上を往復した。ところが、登頂後のビバークで3晩釘付けされ、4日目にC5に帰った。疲労が激しいので1日休んでから下るとサポートのシェルパを帰したもののそのまま下りて来ず、空からの捜索でC4にいるのが確認されたものの、救援のシェルパ2人がC4に到着したときに

は、すでに亡くなっていた。翌年の東京農大隊(山下康成隊長)はネパール側の北西稜を登り、シェルパを合わせて16人を頂上に送った。

*

そんな歴史を持つトゥインズは、英語名を現地語にという方針によって、現在はGimmigelaとなっている。西峰がI峰、東峰がII峰である。

昨年11月、カンチェンジュンガ氷河に面した東峰の北壁が、オーストリア・ペアによって初めて登られた。ハンスイェルク・アウアーとアレックス・ブリュメルは、パンペマからさらに奥へ進んで5200m地点にBCを設けた。高所順応には近くのドロモ南稜を上下し、5900mで3泊してから登攀に取りかかった。

11月8日、氷河をさらに奥へ8時間アプローチして北壁下の6000mでビバークした。急峻な北壁にはビバークできそうな場所が見当たらないので、稜線までの1200mを一気に登ることにした。壁はモンスーンのもたらした雪が固くパックされていて、スピードの上がる好コンディションだった。6850mで頂稜に飛び出し、そこでビバーク。翌朝7時半、強風の吹く頂稜をたどって東峰頂上(7005m)に立ち、そのまま下りつづけて夜遅くなってからBCに帰った。

アウアーは、2013年にカラコルムのクンヤン・チツシュ東峰(7400m)に初登頂、2015年にはブリュメルとニルギリ南峰(6839m)南壁を初登攀している。今回も初登頂を狙って、別の地域の6500m峰を申請したが不許可となり、カトマンズのエージェントから、カンチェンジュンガ周辺はどうだ、と勧められて、遠望写真から今回の北壁を目標に選んだ。

これだけ広大な山群にはまだまだ手ごろなアルパイン・ルートが眠っているというのが感想だという。



カンチェンジュンガ氷河からのトゥインズ東峰北壁遠望。
ハンスイェルク・アウアー撮影

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

岩手山・八幡平・安比高原50kmトレイルの山々

国立公園八幡平地域に位置し、日本百名山でもある岩手山と八幡平の50kmに及ぶ稜線には、18の峰が連なり雲上のスカイラインを形成しています。

高山植物が咲き乱れる八幡平高層湿原、標高1,400mの藤七温泉や日本最初の地熱発電所があり秘湯として親しまれている松川温泉、網張温泉の温泉群が山旅を癒してくれます。

50kmの爽快なトレイルを2泊3日の夏の山旅ルポで紹介します。

初日は、我が国有数のスキーリゾート安比高原の麓でブナの二次林が素晴らしい赤川登山口から入山。ほどなく簡易の湯舟があるだけの安比温泉に到着。尾根筋にコースをとり安比岳をめざします。途中は、ツキノワグマの格好の住処。さらに進むと八幡平黒谷地コースと合流し、源太森(1,595m)で八幡平の全景を見渡し、多くの観光客でにぎわっている八幡沼畔に建つ陵雲荘で一休み。山荘から20分ほどで八幡平(1,613m)に到着。観光道路アスピーテラインからですと標高差83m、約30分で気軽に登れる名山のひとつです。山頂周辺は、オオシラビソの森林帯で、5つほどの火山湖が点在しており、冬は壮観な樹氷群に生まれ変わります。宿泊地藤七温泉までは徒歩30分ほど。藤七温泉は、山宿の佇まいで幾種類もの露天風呂が点在しています。

2日目は、トレイルの核心部のなだらかな稜線の縦走となります。最初に現れる山は、トロイデ火山の畚岳(1,578m)。次に諸檜岳(1,516m)、更に火口壁を残す嶮岨森(1,448m)を經由して歩を進めますと管理の行き届いた大深山荘が現れます。裏手に湧き水があり乾いた咽を潤してくれます。

連峰の盟主大深岳(1,541m)はここから15分ほど。源太ヶ岳(1,545m)を經由して一気に松川温泉に下るコースもあり、四季を通じて静かな時間を過ごせる名湯です。トレイルコースに戻って、鞍部を経て小畚岳(1,467m)へ登り三ツ石山へは見通しの良いハイマツ帯を快適に進みます。紅葉シーズンは、最高のスポットです。

3日目、トレイルも最終日。少し早めに三ツ石山荘を出発。岩手山を目指します。まもなく大松倉山(1408m)に到着。さらに進み犬倉山(1,408m)。ここは網張温泉の元湯でスキーリフトが山頂付近まで伸びています。網張温泉への下山の誘惑に負けないで登山を続



八幡平から岩手山

けると姥倉山(1,517m)に到着します。現在も活発な火山活動が続いており、高温の蒸気が出ていますのでコースを外れないよう注意が必要です。いよいよ岩手山域に入ってきました。黒倉山(1,570m)の中腹を巻き切通し分岐でコースが分かれ、天気の良い日は、アルペ的な鬼ヶ城コースも面白い。強風や雨天のときは、お花畑コースをお勧めします。お釜湖、お苗代湖の二つの火口湖があります。お花畑を過ぎて、岩手山の火口壁を登る感じで急登をしのぐと岩手山九合目の避難小屋に到着。近くには、岩手県山岳協会が管理を担当している八合目避難小屋がありシーズン中は管理人が常駐しています。おいしい水が湧き出ているほか、登頂記念グッズの販売、宿泊可能で毛布の貸し出しも行っています。

一息入れて、いよいよ50kmトレイルの最高峰岩手山(2,038m)への登山です。約40分で山頂に到着します。山頂からは遠くに鳥海山、早池峰山、岩木山、八甲田連峰などが望めます。振り返ると3日間踏査してきた50kmトレイルの山並みが続いています。山頂をあとにトレイルのゴールを目指します。途中平笠不動避難小屋で靴ひもを締めなおし、シラネアオイやコマクサの大群落の登山路を下ると噴出口に到着。約280年前溶岩流が流出し特別天然記念物焼走り熔岩流を形成しています。更に下るとトレイルの終点、焼走り国際交流村登山口到着。思い出深いみちのくの山旅が終わります。(岩手県山岳協会会長 高橋時夫)

日本ユース選手権リード競技大会2017 開催延期について(お知らせ)

3月25日(土)～26日(日)に開催を予定していた表記大会は、競技施設修復工事の遅延のため、4月15日(土)～16日(日)に延期となりました。

ルンポ・カンリ北壁初登攀報告 Loinbo Kangri North Face

ルート名：Loinbo Direct 1400m/WI5

メンバー：平出和也（I C I 石井スポーツ所属、37）、
中島健郎（31）

【行動概要】

9月7日：日本出国、9月8日：チベット・ラサ着、9月13日：BC入り、9月14～19日：偵察・順応、9月20日：BC～北壁6760m、9月21日：6760m～山頂～北稜経由～BC、9月23日：BC撤収、9月25日：ラサ、9月27日：日本帰国

【行動記録】

中島健郎

ラサから西方700kmに位置するカンティセ山脈最高峰のルンポ・カンリは、1994年春に日本ヒマラヤ協会隊が北東稜から挑戦したが、6200mで断念。2年後の秋に中国・韓国合同隊が北東稜より初登頂している。カイルスへの主要な公路から見える山だが、未だ第2登の記録は無い。

アプローチは閉鎖中のザンムーが使えず、成都経由でラサ入り。ラサからは中国登山協会が手配してくれた快適なワゴン車と現地のバイクに乗り換え、日本を発って7日目にはBCへ入った。今回いつもと大きく違うことは、BCスタッフは雇用せず、二人だけのBC生活。食事の準備や水汲みなど、全て自分たちで行った。

ベースキャンプに入ってから比較的天候が良く、北壁と下降路の偵察は5日目には一応終わった。日本で調べてもらった天気予報によれば明々後日の午後から風も強く、しばらく大荒れの予報。好天が続いていた為、壁はしっかり凍っておりコンディションは間違いなく良い。この後、悪天をやり過ごし雪が安定するまで待つとなると果たして何日後か、最悪はもう取り付くチャンスがなくなる可能性もある。多少急ぎ足ではあるが、BC入って1週間でアタックとなった。



9月20日アタック初日はBCから北壁途中まで。氷河湖の淵を歩き、氷河のモレーン帯を進み、北面のプラトーから北壁へ取り付く。しばらくは急な雪壁が続くが、状態は悪くなく、雪崩の心配もない。表面が雪であっても、少し掘ればガチガチの氷が出てくるのでランナーは全てスクリュウで取れた。所々バーチカルアイスがある場所ではビレーをしながら進んだが、大半はコンテでスピードアップ。傾斜は70～90°ぐらいで、ふくらはぎが常にパンプしている。初日は好調に高度を稼ぎ、6760mでビバーク。悪天スノーシャワーの中、氷掘削作業2時間かけて、ようやく二人がなんとか横になるスペースを確保した。高所に弱い僕はテキメンに高山病となり、飲食が不可能となる。

高山病で相当な体力を奪われ、ヨレヨレになってはいたものの、山頂までもう一息。昨夜の降雪で頂上稜線までは新雪が積もっており、軽くラッセルとなる。稜線までもうすぐのように見えるのに、一步一步が重い足取りで、なかなか思うように進まない。ようやく頂上稜線から張り出た雪庇を乗越すと、そこにはポツカリと広大な景色が広がっていた。山頂までは緩やかな稜線を辿るだけ。山頂からはチベットの高原が見渡せたが、そんなことよりも1秒でも1mでも早く下山したい。それほど高度障害にやられてしまっていた。

下降は北東稜から偵察時に途中まで登った北稜を経



由して、その日にベースキャンプへ戻った。翌日は1日中死んだように寝てしまったが、BC入りから撤収まで10日間の登山であった。この記録だけを読めば、高山病で苦しんだだけであっさり登れたように感じてしまうだろうが、決してそんなことはなかった。自分たちが思い描いていたラインとスタイルで、二人が挑むことができたのは、過去の経験と地道なトレーニングがあったからだろうと思う。

今回の遠征動画は下記のホームページでご覧いただけます。

ICI石井スポーツHP→アスリート→登山→平出和也
→平出和也の部屋

平成28年度後期海外登山奨励金選考結果

日本山岳協会では、海外登山の振興と技術の普及、向上を目的として、海外登山奨励金制度を制定し、斬新、独創的で、多大な成果の期待できる登山計画に対し、奨励金を交付しています。

今期(平成29年3月～8月出発予定の隊)は3隊の応募があり、厳正な審査の結果、以下の2隊に奨励金を交付することを決定いたしました。

■「Giri-Giri Boys K7 Expedition 2017」

期間：2017年7月上旬～8月下旬

隊員：横山勝丘、増本亮、長門敬明

山域：パキスタン カラコルム山脈チャラクサ谷

K7 6,934m

内容：K7西峰の未踏ラインからの登頂、またはK7主峰南西稜からの登頂。

赤ラインー目標としているライン

黄ラインー2007ベルギー隊(山頂未達)

評価：2014年に西峰から主峰への縦走を同メンバーで試みたが敗退。その時の経験を生かし、今回は単一のピークだが、より攻撃的な未踏ラインをフリークライミングにこだわった登り方でトライする。再挑戦する意欲とその開拓スタイルを評価した。

交付額：20万円

■「Shispare Expedition 2017」

期間：2017年7月1日～31日予定

隊員：平出和也、中島健郎

山域：パキスタン

カラコルム山脈フンザ周辺

シスパーレ 7,611m

内容：北東壁または北西稜を新ルートか

【アタック装備】

- ・ロープ(マムートトワイライト)7.5mm×50m 2本
- ・スクリュウ(レーザースピードライト)13cm 2本、17cm 8本、21cm 1本
- ・アルパインクイックドロウ 8 set
- ・120cmスリング 3つ
- ・捨て縄 5mm×10m
- ・ピトン 2枚
- ・ストッパー 1個
- ・トライカム 2個
- ・アッセンション 1個
- ・スノーバー 4本
- ・ジェットボイル SOL チタニウム
- ・テント(G-Light x 1～2人用)
- ・シュラフ 2つ
- ・マット(Z LiteSol スモール 1枚を半分にカット)
- ・テルモス 900ml 1本
- ・ナルゲン 1L 1本
- ・食料 2泊分



らアルパインスタイルで登る。

評価：2007年、2012年、2013年に続く4回目の挑戦。ルートの難易度もさることながらアプローチとなる氷河も悪く、困難が予想される。未踏のラインからアルパインスタイルで登るスタイルと、執念の挑戦意欲を評価する。

交付額：20万円



UIAA登山部会ヨルダン、ペトラ会議を終えて

U I A A 登山部会定例会議 (Mountaineering Commission; MountCom) が2016年11月4～5日に、ヨルダン・ハシミテ王国 (通称ヨルダン) のペトラ (Petra) で開催された。Jordan Tourism Board (J T B) の主催により、12カ国14メンバーが集まった。J T B を代表して、Aiman Al-Nawafah 氏が世話人となった。ヨルダンはまだ、山岳連盟ができておらず、Aiman 氏らが組織づくりを目指して活動している。

1. ペトラ紹介

会議場となった、ペトラはアンマン A m m a n から南に車で3時間程度走った場所にある。紀元前にモーゼがエジプト脱出し、奇跡を起こして、紅海の海を二つに分けてヘブライの民と渡海し、通過した場所で、モーゼが杖を叩くと水があふれ出たモーゼの泉がある。

砂漠にある風化砂岩の山に、シークと呼ばれる深く切り込んだ渓谷が長く続き、その先に、ナバアテ人が岩肌をくり抜いた墳墓エル・カズネ (宝物殿) がある。現在では、映画インディージョーンズの「最後の聖杯」の舞台となったことで有名である。勿論、聖域を離れた場所でも、果てしなく広がる砂岩の壁 (ペトラとはギリシャ語で崖/岩のこと) だらけ、クライミングが盛んで、登り放題であるが、砂漠にあるため、少し岩山に入り込むと、人の匂いは消え去る。

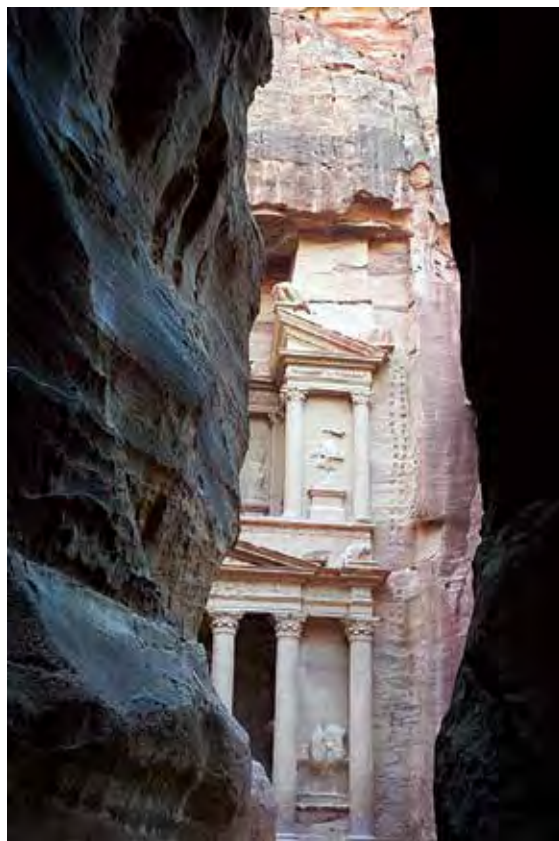
治安は隣国シリア、イラクとの国境線沿いにレベル2 (外務省より、不要不急の渡航の中止) があるが、大半はレベル1 (十分注意) であった。ハイウエーを走行中、町に近づくと検問が多数あり、ホテルもX線手荷物検査装置に荷物を通し、金属物探査ゲートを通らないと出入りできない。穏やかな日常生活の中の緊張を感じた。

2. 会議の概要

会議は、今回を最後に登山部会 MountCom を退会する Pierre 部会長、そして、Claudio 新部会長との共同進行で進められ、さらに、特別参加した前々部会長 Elisa Moran 氏が加わった。

今回の会議は、新旧部会長の交代時期と U I A A の変革期が重なったため、全般を通して、中期活動計画 (4年間) が話し合われた。

特に、当部会の中心的活動課題として、Steve 氏が U I A A Training Panel で進める標準化教育のグローバル化、活動目的の明確化、ガバナンス、戦略的対応手段の検討などを話し合った。ここでは、Steve 氏により多くの場所で講演してきた「登山活動資格認



シークからエル・カズネ

定とはどのようなものか」What is a qualification for Mountaineering Activities? を基に、議論が成された。

グローバル化については、長い間続けてきたペツル財団 PETZL Foundation との共同作業である夏期/冬期登山テキスト作成事業ならびに、ヒヤリハット Near Miss データベース事業計画の MountCom によるバックアップについて話し合われた。

一方、ペツル財団以外のスポンサーとの提携についても報告され、さらに、国際山岳ガイド連盟 U I A G M (International Federation of Mountain Guides Associations) と 国際山岳救助委員会 I C A R (International Commission for Alpine Rescue) との共同作業について話し合いが持たれていることが紹介された。しかし、委員の中から、様々な問題点が指摘され、特に、これの組織間で、生じる地域的軋轢について、厳しい指摘があり、共同作業の難しさを実感させられた。

3. プラハ会議における新部会長 Claudio 氏から青山への宿題

前プラハ会議に於いて、Claudio 氏から、私の担当する登山事故データベースの構築作業に関し、「データベースから何が得られるのか、具体的に示せ、また、今後の活動計画を説明せよ」との宿題が出された。

最近の会議では、どこのデータサーバーを使用するのか、U I A A と共同事業契約を行ったフランスの

Camp to Campのサーバーを利用すべきと言うグループとの間で激しい対立してきた。新部長としては、対立するだけの意味があるのか、その成果がどのようなものとなるのか、具体的に示すことで、今後の活動方針の参考としたかったのであろう。

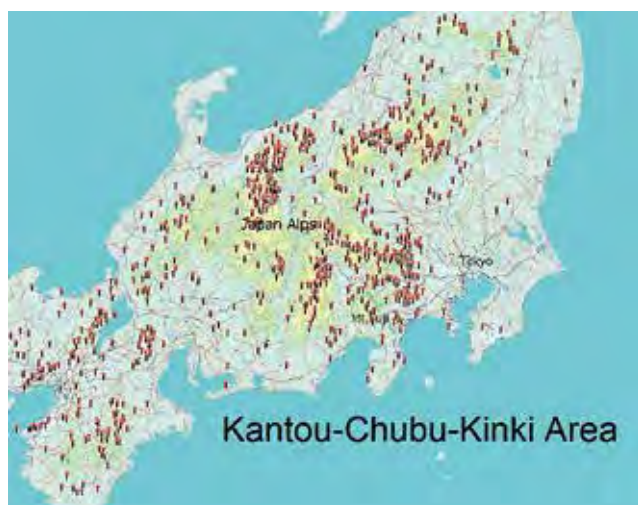
幸い、本年8月、10年近く交渉してきたイギリス山岳レスキュー England and Wales Mountain Rescue が当計画に正式参加を表明し、調印を行った。EWMRは、膨大な事故データベースを構築し、それをイギリス全土のレスキュー活動基盤としてきた。担当者Rob氏との間で、データ変換プログラムを作成し、日本データと合成する事で通常の記憶媒体(HD)上にデータベース構築することにした。なお、サーバーの利用については、これから事故調査を計画しているロシアが参加の意向を示しているため、あくまでデータのウェブ入力にのみ使用することにした。

今回報告したデータ分析は、3団体(日山協、労山、JRO)で行っている事故調査データベースからUIAAフォーマットに変換したUIAAデータベースで単純集計分析を行ったものである。UIAAフォーマット(僅か2頁)に変換する場合、事故発生日の緯度経度、活動目的、地形表現、目撃者の有無、事故原因などで、様々な問題が起こる。データ変換条件を設定した上での条件付き変換となった。その典型的な事例が、登山目的での「縦走」「沢登り」などである。縦走は

宿泊の有無を確かめ multiday hike とし、沢登りは該当項目がないので canyoning の一種とした。事故発生場所の緯度経度は、今回のUIAA報告に併せて、事故調査データベースからおおよその位置を読み取ったものである。我が国でも、ごく一部の遭難対策関係者にのみ提供しているが、多くの登山者の方々にも興味深いと考え、ここに中央日本での事故分布マップを紹介する。

最後に、再び激論となった。フランスグループが現在進めている、事故データベースは、「事故とヒヤリハットは同じ」としている。しかし、「両者の関係は、必ずしも成り立たない」と主張したのだが、対立したままでは終わってしまった。国際的な議論は本当に難しい。

(記 遭難対策委員会副委員長 青山千彰)



平成28年度(29年1月)
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成29年1月5日(木)

連絡部会: 18時~19時25分

常務理事会: 19時30分~21時

場所 岸記念体育会館・4F特別会議室

出席者 八木原会長、尾形・國松、高橋・

亀山各副会長、小野寺、西内、森下、京

才、瀧本、仙石、水島、各常務理事

相良財政、西原競技運営、澤田委員長、

山本技術(審判)、松隈自然保護の各委

員長、中島監事

委任 中瀬常務理事、増山理事、小日

向、角田委員長

会長挨拶

明けましておめでとうございます。平成29年が始まりました。変わり目の大きい時でお世話をおかけします。

1. 議事

(1)平成28年度12月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)

意義なく承認された。

(2)A v S A R 規約について

西内登山部長から資料に基づいて提案がなされた。

JMAと日本勤労者山岳連盟、日本山岳ガイド協会の3団体が協力して立ち上げるA v S A Rについて説明があり、名称、入会金、会費、監査体制などについて質疑があった。

協力については承認され、規約については質疑のあった事項について検討し、再提案することになった。

(3)新春特別表彰(追加)について

小野寺事務局長が資料に基づいて追加推薦の提案があった。

大分岳連推薦の後藤利雄氏、競技部推薦の檜崎智亜、藤井快、野口啓代、野中生萌、小林幸一郎、会田祥の各選手が異議なく承認された。

(4)JOCナショナルコーチについて

小野寺事務局長が資料に基づき提案事項について説明。

日山協にJOCのナショナルコーチ制度を活用してナショナルコーチを設置することを承認。人選は競技部に一任し、常務理事会で承認する。

(5)第12回日本スポーツグランプリ候補者

の推薦について

小野寺事務局長が資料に基づき説明。候補者無しで承認。

(6)平成30年勲章及褒章候補者の推薦について

小野寺事務局長が資料に基づき説明。候補者無しで承認。

(7)BMCサマークライマーズミート、2名の推薦について。

澤田国際委員長の説明と資料による2名の推薦が諮られた。

倉本慶太氏、増本さやか両氏の派遣が承認された。

(8)IFSC役員推薦について

小野寺事務局長から口頭で、東京2020オリンピックを控え、外務省スポーツ外交推進事業やJOCなどからIFへの役員送り込みが求められている現状を鑑み、3月のIFSC総会で役員改選が行われるので、小日向徹選手強化委員長を役員候補者として推薦したい旨、提案説明があった。

小日向委員長の推薦を承認。

2. 報告事項

(1)28年度11月会計報告について
相良財政担当理事が資料に基づいて報

- 告。
 ・会費未納の件と山岳共済会からの委託事業費の配布について質問があった。
 (2)内閣府立ち入り検査報告
 小野寺事務局長が資料に基づいて報告し、中畠監事が補足説明を行った。
 (3)新Web開設についての報告
 瀧本デジタル小委員会・委員長が資料に基づいて報告。
 (4)オリンピック競技会場承認報告
 小野寺事務局長が資料に基づいて報告。
 (5)福井プレ大会説明報告
 西原委員長が資料に基づいて報告。
 (6)ユースオリンピックについて
 小野寺事務局長が資料に基づいて報告。
 (7)第7回高校選抜クライミング選手権大会について
 森下競技部長が資料に基づいて報告。参加者は、184名、41都道府県。
 (8)協会名称の新ロゴデザインについて
 社からの案が参考として回覧された。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

瀧本指導委員長から「2月中に体協に指導員検定の結果報告をしなくては行けないので、2月6日の指導常任委員会で認定したものを2月23日の常務理事会で追認願いたい。」との提案があり。

本提案は意義なく承認された。

4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)「谷口けい冒険基金」後援名義使用について
 (2)福井岳連「ネパール大地震、ランタン崩壊報告」後援名義使用について
 小野寺事務局長が資料に基づいて説明。共に異議なく承認された。

5. 専門委員会動静

11, 12月(11月24日～12月31日)

- (1)ジュニア普及委員会
 11月24日(木) 出席4名、委任1名
 ア)ジュニア普及情報交換会議について
 ・2月11日(土)、オリセンカルチャー棟工芸室
 講師予定：谷口康司氏(高体連)、今村みずほ氏(広島)、安藤武典氏(愛知)、青木英一氏(神奈川)
 イ)なすかし雪遊び隊2017について
 ・3/27～29、募集人員30名
 (2)国際委員会
 12月13日(火) 出席9名、委任4名
 ア)ロシア女性Fea. (Irina)より来夏エルブルース(ロシア)へのお誘い
 大宮、張、岩崎らが考慮中。要調整。
 イ)BMC夏クライミング・ミート募集中(国内締め切り1/5)
 ウ)山岳スキー競技について
 大会が4月開催のため、12月の常務理事会に大会再開の議案を提出。大会再開が承認された。
 エ)国内ウインタークライマーズミー

- ティング(WCM)について
 ・1/21, 22 米子不動(長野)
 オ)第3回海登懇の報告
 ・11/17(木)「働きながら海外の山へ」
 講師：坂上光恵氏、山岸尚将氏
 30名参加(一般参加者19名、有料参加者17名)
 集客の告知方法について反省。
 カ)平成29年度国際委員総会兼第56回海外登山技術研究会について
 会場と日程、内容(テーマと講師)の検討(日程：7/22, 23(土、日)、会場：オリンピックセンター)
 海外登山報告の案①ルンポ・カンリ(平出、中島、奨励金隊)②カン・ナチュゴ(鳴海隊、奨励金隊)③パタゴニア2隊(奨励金隊)④重広恒夫JAC隊ネパール、ナンマガリII峰登頂⑤北大山岳部カムチャツカ北部スレディニー縦走⑥早稲田OB隊キルギス研究会のテーマ案①極地、極北の山、知られざる山域②パタゴニアの新しいスタイルでの開拓 次回以降に再検討
 キ)平成29年年度の事業計画、予算について
 ク)国内外に向けてのHP案について
 国内向け「海外からの案内」、「海外登山地最新情報」、「海外登山の手続きガイド」
 外国向け「About Japanese Mountains」
 「Mountain Area Information」
 (3)競技部 競技運営委員会
 12月5日 出席13名
 ア)福井国体プレ大会について
 ・大会名称：「リード・ジャパンカップ」を「日本学生スポーツクライミング対校選手権大会」へ変更する案
 リード・ジャパンカップ、日本選手権リード競技の統合による競技会開催変更について。
 ・大会日程：平成30年6月2日(土)～3日(日)
 以上委員会で確認され、福井県岳連、池田町との調整に入ることとした。
 イ)国民体育大会競技名称について
 ウ)ブロック別研修会開催準備状況について
 エ)報告事項
 (1)第72回愛媛国体準備状況について
 ・予選会免除世界大会の報告
 ・国体大会期間中のイベントは、実施しない
 (2)第74回茨城国体期期間の承認
 ・平成31年10月4日～10月6日
 (4)デジタル情報小委員会
 12月16日(金) 出席4名、委任3名
 ア)新HPのチェック
 ①新HPのurl Topページ <http://www.jma-sangaku.or.jp/山岳/sangaku/スポーツクライミング/sports/山岳保険/hoken/>
 ②旧サイトTopページ <https://www.jma-sangaku.or.jp/cominfo/登山/tozan/スポーツクライミング/games/山岳保険/kyosai/>
 ③管理画面について

- ・メインコンテンツ単位での管理者用ID、パスワード設定について
 ・スポーツクライミングの管理画面ID、PWについて
 ④JMA Top管理画面のID、PWを事務局員に開示し、行事日程などの入力を検討。
 ⑤その他
 ・バナー、サイドバナー、下部バナーについて
 ・英文ページについて
 ・jma-climbing.org scojとの関係について
 (5)競技部技術委員会
 山本委員長が報告。ルートセッター講習会を12月26, 27, 28に加須にて行った。新規取得者9名、公認セッターからC級への希望者が1名、の参加者。2月11日に審判セッター会議を開催予定。
 (6)自然保護委員会
 松隈委員長が報告を行った。自然保護指導員研修会を11/5に実施した。6回目である。1500人から1200人に指導員が減っている。自然保護指導員は何をするのか、というガイドラインを示す必要がある。教本もよいのが出来てきた。
 巻機山復元活動40年の方を講師に講習会を開いた。
 携帯トイレの使い方を理解して使用して頂くためのパンフレット作成を考えている。

6. その他の重要事項

- 12月2日～1月7日
 (1)日本勤労者山岳連盟 望年会
 12月2日(金) 於：労山事務所
 八木原会長、尾形副会長、小野寺常務理事
 (2)IFSCイベント会議
 12月2日(金)～3日(土) 於：トリノ
 小日向委員長、安井委員
 (3)IFSC五輪合同テスト会議
 12月3日(土)～4日(日) 於：フランス
 小日向委員長他
 (4)競技運営委員会四国ブロック研修会
 12月3日(土)～4日(日) 於：徳島市
 小山常任委員
 (5)IOC理事会で東京2020五輪大会のスポーツクライミングの競技会場が、東京都江東区の青海アーバンスポーツ会場に正式決定
 (6)キルギス山岳協会 ウラジミール会長
 山岳トイレ・プロジェクト協力依頼
 12月8日(木) 於：岸記念体育会館
 八木原会長他
 (7)日本ヒマラヤ協会 華甲望年会
 12月10日(土) 於：四谷主婦会館「プラザエフ」 亀山副会長
 (8)加須市山岳連盟文部科学大臣表彰受賞祝賀会
 12月10日(土) 於：加須市民プラザ
 八木原会長、尾形副会長
 (9)第12回ボルダリングジャパンカップ予

- 備予選大会 12月10日(土)~11日(日)
於:深谷ヴィレッジ
八木原会長、尾形副会長、森下常務理事、小日向委員長ほか
- (10)競技運営委員会近畿ブロック研修会
12月10日(土)~11日(日) 於:神戸市
滝内常任委員
- (11)2016毎日スポーツ人賞表彰式
12月12日(月) 於:セルリアンタワー
東急ホテルB2F 尾形副会長
- (12)競技別活動拠点の指定打ち合わせ
12月12日(月)
於:ナショナルトレーニングセンター
小野寺常務理事、小日向委員長
- (13)JSC感謝の夕べ・新国立競技場整備
事業着工式記念
12月13日(火) 於:国立代々木第2体

- 育館 八木原会長、尾形副会長
- (14)JOC-NF総合支援センター打ち
合わせ 12月14日(水)
於:岸記念体育会館 小野寺常務理事
- (15)選手強化NF事業に係る事業実施報告
書の記載上の留意事項 12月15日(木)
於:Ts アジアビル501会議室
小野寺常務理事
- (16)田部井淳子さんを送る会
12月18日(日) 於:昭和女子大学
八木原会長、他
- (17)選手・スタッフ合同会議
12月18日(日) 於:岸体育会館504,505
号室 尾形副会長、森下競技部長、小
日向委員長他
- (18)UAAA会長InJeong Lee氏打ち合
わせ 12月19日(月) 於:日本山岳会ル-

- ム 神崎顧問、八木原会長、尾形副会
長、小野寺常務理事
- (19)第1回BWC実行委員会
12月20日(火) 於:八王子エスフォル
タアリーナ 尾形副会長、森下部長、
小日向強化委員長
- (20)ノースフェース創立50周年記念祝賀
会 12月20日(火)
於:BA-TSU ART GALLERY
八木原会長
- (21)内閣府立入検査 12月21日(水)
於:日山協事務局 尾形副会長、小野
寺常務理事、中島監事
- (22)第7回全国高等学校選抜クライミ
ング選手権大会 12月24日(土)~25日(日)
於:加須市民体育館
八木原会長、尾形副会長、森下常務理
事、中瀬常務理事、西原委員長
- (23)第1回「山の日」記念全国大会総会(第
4回) 12月27日(火)
於:都道府県会館 八木原会長

寄贈図書

寄贈本	(株)山と溪谷社	「山怪 武山人が語る不思議な話」著:田中 康弘
	(株)山と溪谷社	「岩と雪ベストセレクション」著:池田 常道
雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.836
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.982
会報	兵庫山岳連盟	「兵庫山岳」第595号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」第572号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.685
	横浜山岳会	「山」No.1015
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」2017.1
	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.56
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.465
	(一社)大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.211
	(一社)日本青少年育成協会	「JYDAガイド/かけはし」Vol.9
	福岡山の會	「せふり」No.378
	福井県山岳連盟	「福井県山岳連盟創立60周年記念誌」
	(公財)日本ボウリング協会	「JBC news」第542号
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》256
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol.29
	中華民国健行登山會	「中華登山」179 2017.01
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.327 増刊号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.328
	神奈川山岳連盟	「ときわ木」171号
	明治大学山岳部	「妒辺通信」No.182
	(公社)国土緑化推進機構	「ぐりーん・もあ」第76号
	Korean Alpino Federation	「大山聯」Vol. 217
	Corean Alpine Club	「山」Vol. 249
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol.29
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.504
	(公財)横浜市体育協会	「SPORTSよこはま」2月号
	東京野歩路会	「山嶺」No.1043
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第439号
	スポーツのこころプロジェクト	「スポここ」第14号
三峰山岳会	「岩つばめ」352号	
(公社)日本山岳会	「山」No.860	
(公財)日本ゲートボール連合	「ゲートボールNavi」2017年号	
やまびこ山想会	「愛知岳連ニュース」第421号	
日本山岳会 自然保護委員会	「木の目 草の芽」第126号	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.686	
中国登山協会	「山野」2017 1 総221期	
横浜山岳会	「山」1016号	



超肌着力 想像をはるかに超える“保温力”

編集後記

立春が過ぎ日差しに力強さが感じられるがまだまだ寒い。本協会もスポーツクライミング競技の背景でマスメディアへの露出が増え光栄に思える。名称変更もあり全国組織の一致団結と共和が求められている。(広報担当 水鳥彰治)

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ヶ岳山荘
 TEL:090-2253-3203 (R.V.4)
神の川ヒュッテ
 TEL:042-787-2270
和田峠「峠の茶屋」
 TEL:042-687-2882
 理事長・代表 **杉本憲昭**

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
 ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
 ・陣馬山トレイルレース実行委員会
 ・道志村トレイルレース実行委員会
 ・八重山トレイルレース実行委員会
 ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
 ・上野原秋山トレイルレース実行委員会
 大会々長 **杉本憲昭**

登山月報 第575号
 定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成29年2月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、「岳」を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすりめです。

購読割引 **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に届きが届きます。

通常本紙価格12冊
8,160円(税込8,127円) → 年間購読12冊
7,480円(税込7,447円)
1冊あたり680円
1冊分無料

年間購読特典

岳人オリジナル
コンパクトフォーム/パッド

年間購読者
お申し込みの際
お申し込み
メールアドレス
プレゼント



使用サイズ
230x140x0.8mm

岳人 2017
March
No.17 3



山を描く

3月号
2/15発売

「岳人」2017年 3月号

特集 山を描く

【野野島】石川直樹「アジアの山に生きる」
【竹田洋実】「オホーツクの村物語」

通常価格880円(税込)

★モンベルのウェブ
サイト、全国のモン
ベルストアで購
読可能!

年間購読
お申し込み方法

●ウェブサイト
<http://www.gakujin.jp>

●お電話で [お申し込みの際は月割をお選びください]
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6438-5797
お申し込みの際は、お申し込みの住所を必ずお知らせください。

●全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

初めて、
という不安。

ここから始まる、
という希望。



未来は、
希望と不安で、
できている。

明日をつよく。三井住友海上

www.ms-ins.com

三井住友海上
MS&AD
三井住友海上

あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日本山岳協会 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト
(www.jma-sangaku.or.jp/mobile/)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)